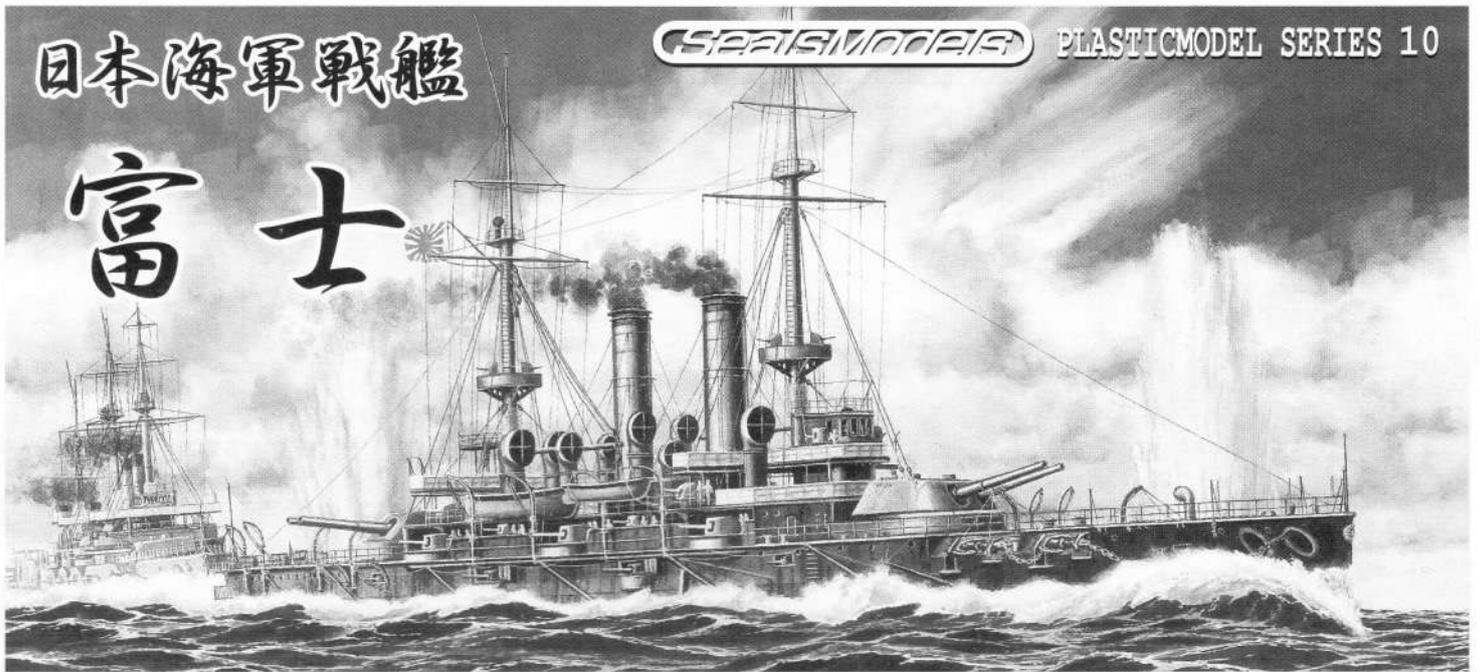


富士



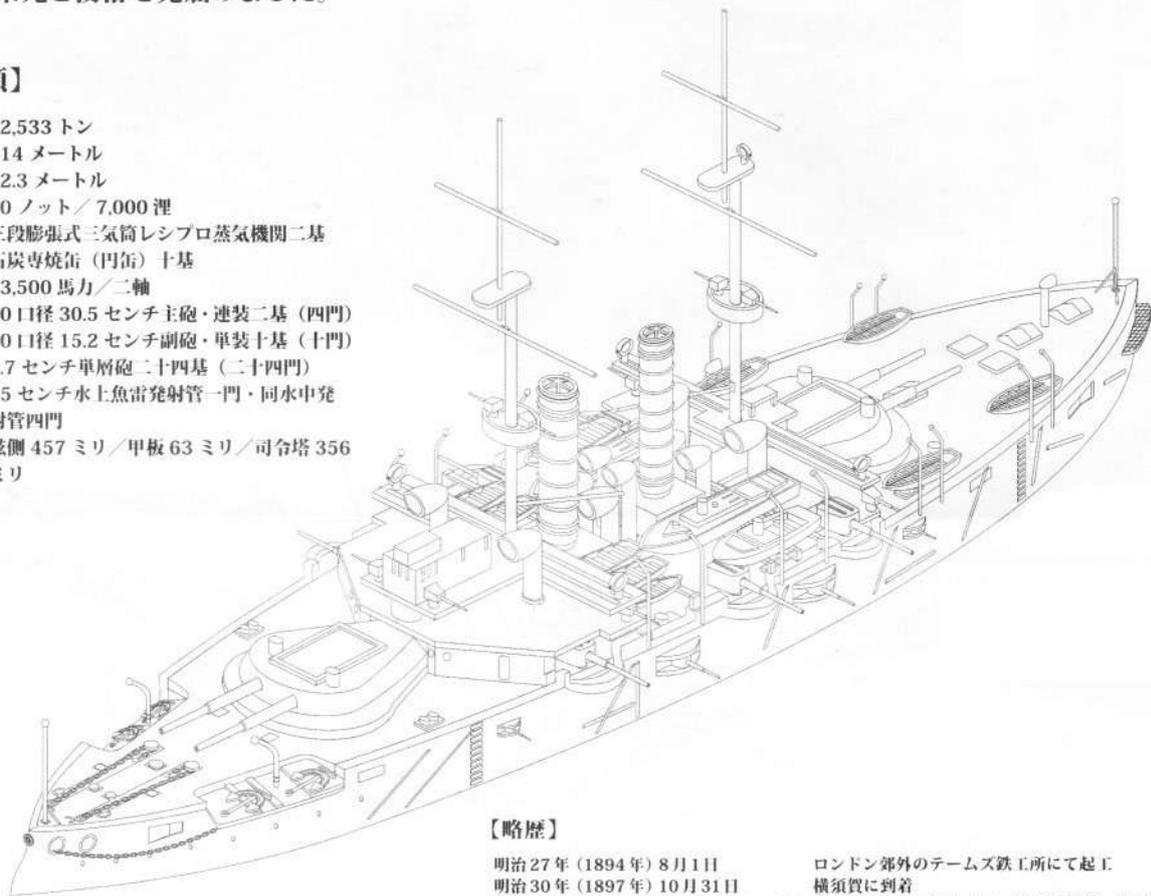
わが国最初の近代的戦艦である富士は明治38年8月1日、ロンドン郊外テムズ鉄工所で起工されました。

列強のアジア進出、清国海軍の「定遠」「鎮遠」の強力な海軍力の存在という状況下、わが国は宮廷官費をその予算に回すなどして漸く建造にいたりました。

日清戦争終了後の明治30年に横須賀に到着し、日露戦争においては旗艦三笠の第一戦隊に所属し各海戦で活躍した後、一等海防艦、運用術訓練艦、特務艦、練習特務艦となり、昭和23年横須賀にて解体された旧海軍最長艦齢48年である本艦は、日本海軍の栄光と没落を見届けてきました。

【新造時要項】

常備排水量	12,533トン
垂線間長	114メートル
全幅	22.3メートル
航続力	10ノット/7,000哩
主機	三段膨張式三気筒レシプロ蒸気機関二基
主缶	石炭専焼缶(円缶)十基
出力/軸数	13,500馬力/二軸
主要兵装	40口径30.5センチ主砲・連装二基(四門) 40口径15.2センチ副砲・単装十基(十門) 4.7センチ単層砲二十四基(二十四門) 45センチ水上魚雷発射管一門・同水中発射管四門
装甲	舷側457ミリ/甲板63ミリ/司令塔356ミリ



【略歴】

明治27年(1894年)8月1日	ロンドン郊外のテムズ鉄工所にて起工
明治30年(1897年)10月31日	横須賀に到着
明治37年(1904年)~明治38年(1905年)	日露戦争 第一艦隊所属 旅順封鎖戦、黄海海戦(明治37年8月)、日本海海戦(明治38年5月)
明治44年(1911年)8月28日	戦艦籍から一等海防艦へ
昭和20年(1945年)8月1日	除籍

お買い上げのお客様へ

部品をこわしたり、無くしたりしたお客様には実費にてお分けします。「部品注文カード」に必要なランナーの記号、数量を記入して必ず現金書留でお申し込み下さい。書留の中にお客様の住所、氏名、電話番号を書いたメモを同封下さい。

金額は送料+手数料込み(合計840円)と部品代(A、B、Cランナー各1枚1,200円。部品のバラ売りはありません)です。

■お申し込み

シールズモデルズ 〒164-0011 東京都中野区中央2-59-11 (有)フォーサイト内 TEL:03-5337-9051 FAX:03-5337-9052

富士 部品注文カード

<input type="text"/>	ランナー
<input type="text"/>	枚

※必ず現金書留でご注文ください。

パーツリスト

[Aランナー]

- 1 甲板
- 2 船体(右舷)
- 3 船体(左舷)
- 4 スタンワーク
- 5~8 舷側板

[Bランナー]

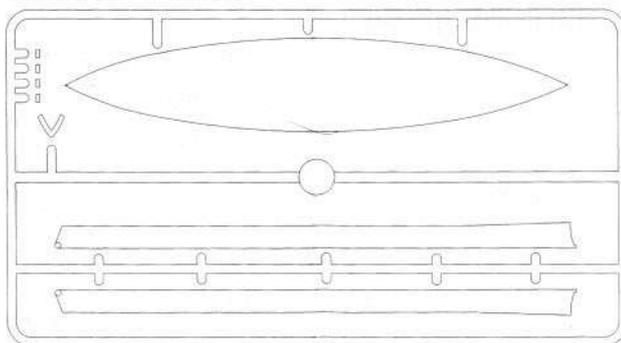
- 1 ポート甲板
- 2 後部艦橋基部
- 3 全部艦橋基部
- 4 後部艦橋
- 5 主砲砲身
- 6 主砲塔
- 7 後部煙突
- 8 全部煙突
- 9 後部煙突キャップ
- 10 全部煙突キャップ
- 11 通風筒(中)
- 12 通風筒(大)
- 13 通風筒(小)
- 15 後部艦橋上部
- 16 前部艦橋上部
- 17~20 ファイティングトップ
- 21 右舷後部艦橋側面
- 22 左舷後部艦橋側面
- 23 右舷前部艦橋側面
- 24 左舷後部艦橋側面
- 25 前部マストデリック
- 26 後部マストデリック
- 27~28 ヤード(小)
- 29 後部マスト
- 30 前部マスト
- 31~32 ヤード(大)

[Cランナー]

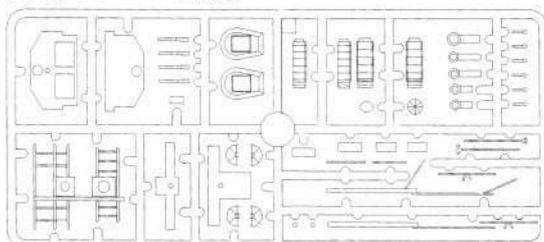
- 1 旗竿
- 2 旗竿支柱
- 3 20ft ジャンク
- 4 27ft ホーラー(ダビット穴有)
- 5 27ft ホーラー(ダビット穴無)
- 6 42ft ランチ
- 7 36ft 内火艇
- 8 56ft 水雷艇・艇体
- 9 56ft 水雷艇・甲板
- 10 30ft ギグ(ダビット穴有)
- 11 30ft ギグ(ダビット穴無)
- 12 30ft カッター
- 16 通風筒(大・長)
- 17 通風筒(大・短)
- 20 30.5cm 砲・砲身
- 21 30.5cm 砲・砲塔
- 22 15.2cm 単装砲
- 23 75mm 単装砲
- 25 測距儀
- 26 羅針儀
- 27 探照灯
- 31 副錨
- 32 主錨
- 33 錨用ダビット
- 34 ポートダビット(後部甲板用)
- 35 ポートダビット(36ft内火艇用)
- 36 ポートダビット(ポート甲板用)
- 37 御紋章
- 38 セマホア式信号機
- 42 防弾用ハンモック
- 43 47mm 単装砲

※上記リスト以外のCパーツは本キットでは使用しません。他キットのディテールアップなどにお使いください。

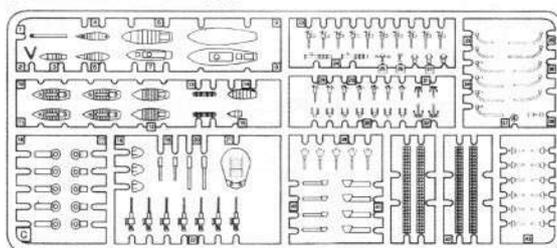
[Aランナー 1枚]



[Bランナー 1枚]



[Cランナー 2枚]

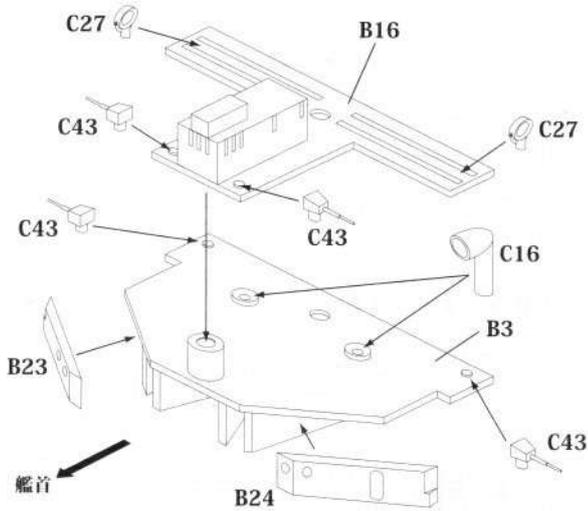


[組立前に必ずお読み下さい]

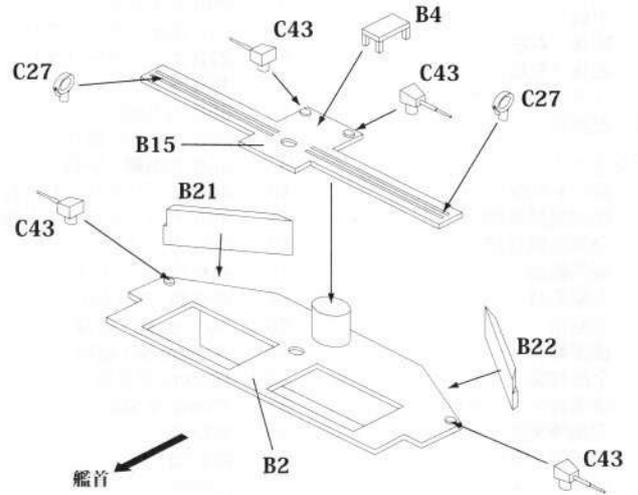
- 組み立てる前に、組立説明書をよく読み、組立手順、加工方法などを把握して、仮組みを充分に行ってください。
- 各部品(特に小部品)の取付は、平面図・側面図にて位置を確認してください。
- 塗装説明は、GSIクレオス社のMr. カラーで指定してあります。

<h3>I 前部マストの組立</h3> <p>日本海海戦時は ◀ 印の突起は削り取ります。</p> <p>塗装 ● 全面・・・(32) 軍艦色(2)</p> <p>両舷に47mm 砲をつける</p> <p>ファイティングトップ ※新造時~黄海海戦時まではとりつける</p>	<h3>II 後部マストの組立</h3> <p>日本海海戦時は ◀ 印の突起は削り取ります。</p> <p>塗装 ● 全面・・・(32) 軍艦色(2) ● 探照灯レンズ面・・・(8) 銀軍艦色(2)</p> <p>探照灯 C27</p> <p>両舷に47mm 砲をつける</p> <p>ファイティングトップ ※新造時~黄海海戦時まではとりつける</p>	<h3>III 第一煙突、第二煙突の組立</h3> <p>※日本海海戦時には煙突胴体部の円周モールドはなかった可能性もあります</p> <p>塗装 ● (明治34年9月~明治37年1月) 全体・・・(33) つや消し黒 ● (明治37年1月~) 煙突・・・(32) 軍艦色(2) B9,B10・・・(33) つや消し黒</p>		
<h3>IV 主砲の組立</h3> <p>2個作ります</p> <p>塗装 ● (新造時~明治37年1月) 上面四角部分・・・(33) つや消し黒 その他・・・(62) つや消し白 ● (明治37年1月~) 全面・・・(32) 軍艦色(2)</p>		<h3>VI 15cm 単装砲の組立</h3> <p>6個作ります</p>		<h3>VII 船体砲郭部15cm 単装砲加工</h3> <p>船体砲郭に取り付ける15cm 砲はC22の砲身部分を切り取って使用します。</p> <p>斜線部は不要です</p> <p>4個作ります</p>
<h3>V 56ft 水雷艇の組立</h3> <p>塗装 (45) セールカラー</p> <p>塗装 (44) タン</p> <p>塗装 (32) 軍艦色(2)</p> <p>2個作ります</p>				

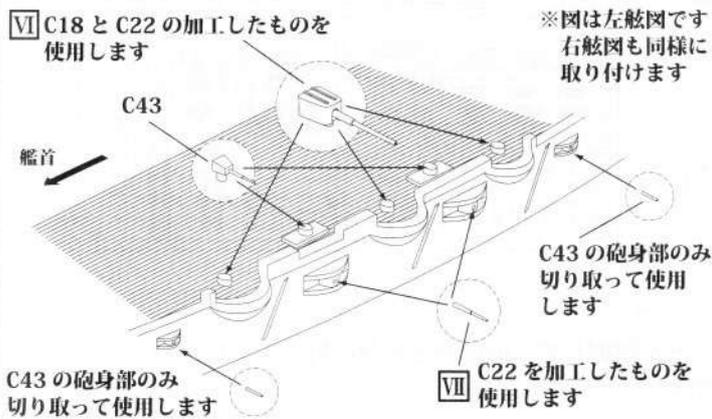
VIII 前部艦橋の組立



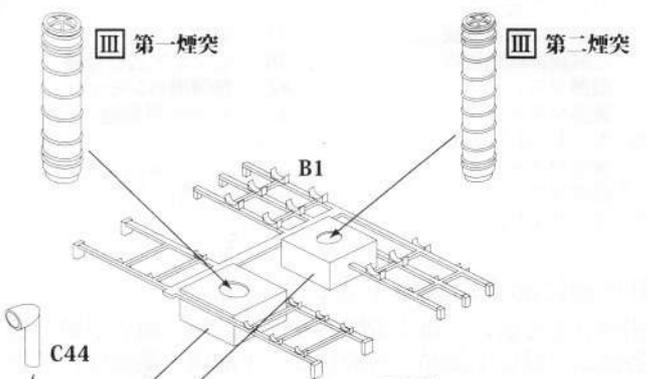
IX 後部艦橋の組立



X 船体側面武装の取付

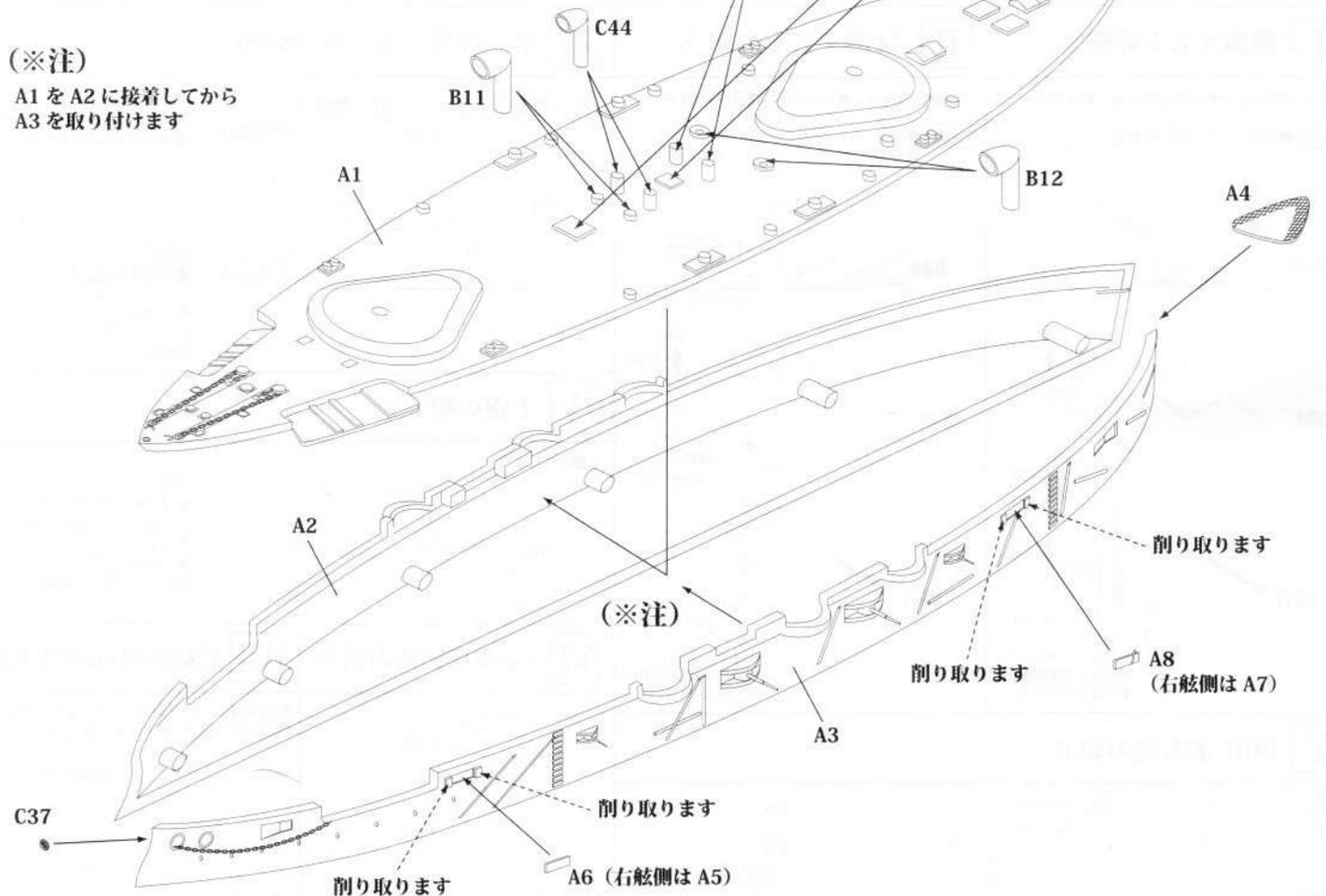


XI 船体の組立



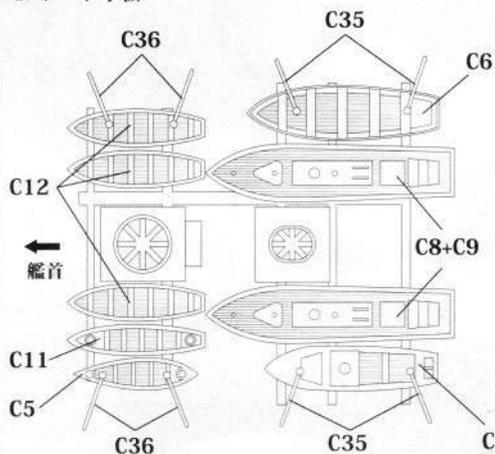
(※注)

A1をA2に接着してから
A3を取り付けます

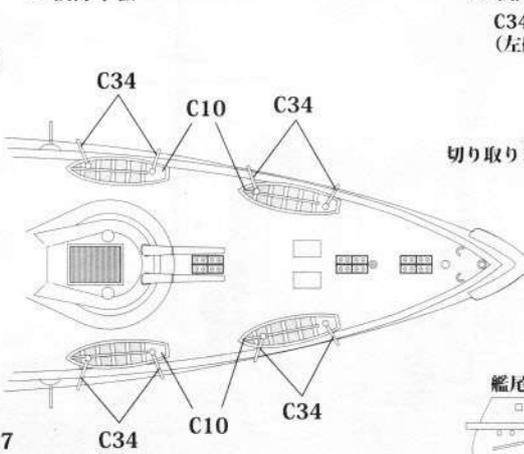


XII ボート及びボートダビット配置図

1. ボート甲板

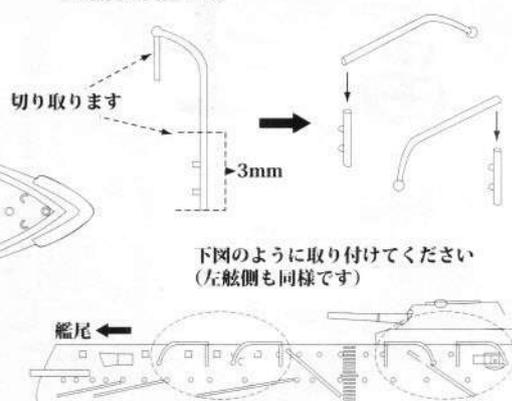


2. 後部甲板



3. 戦闘時折り畳み要領図

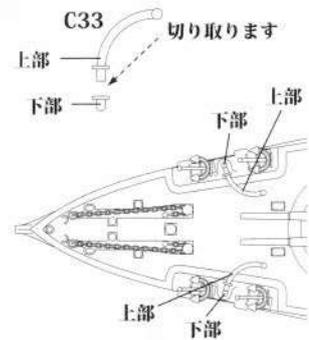
C34 を折り畳む場合は下図の要領で加工してください (左舷側も同様です)



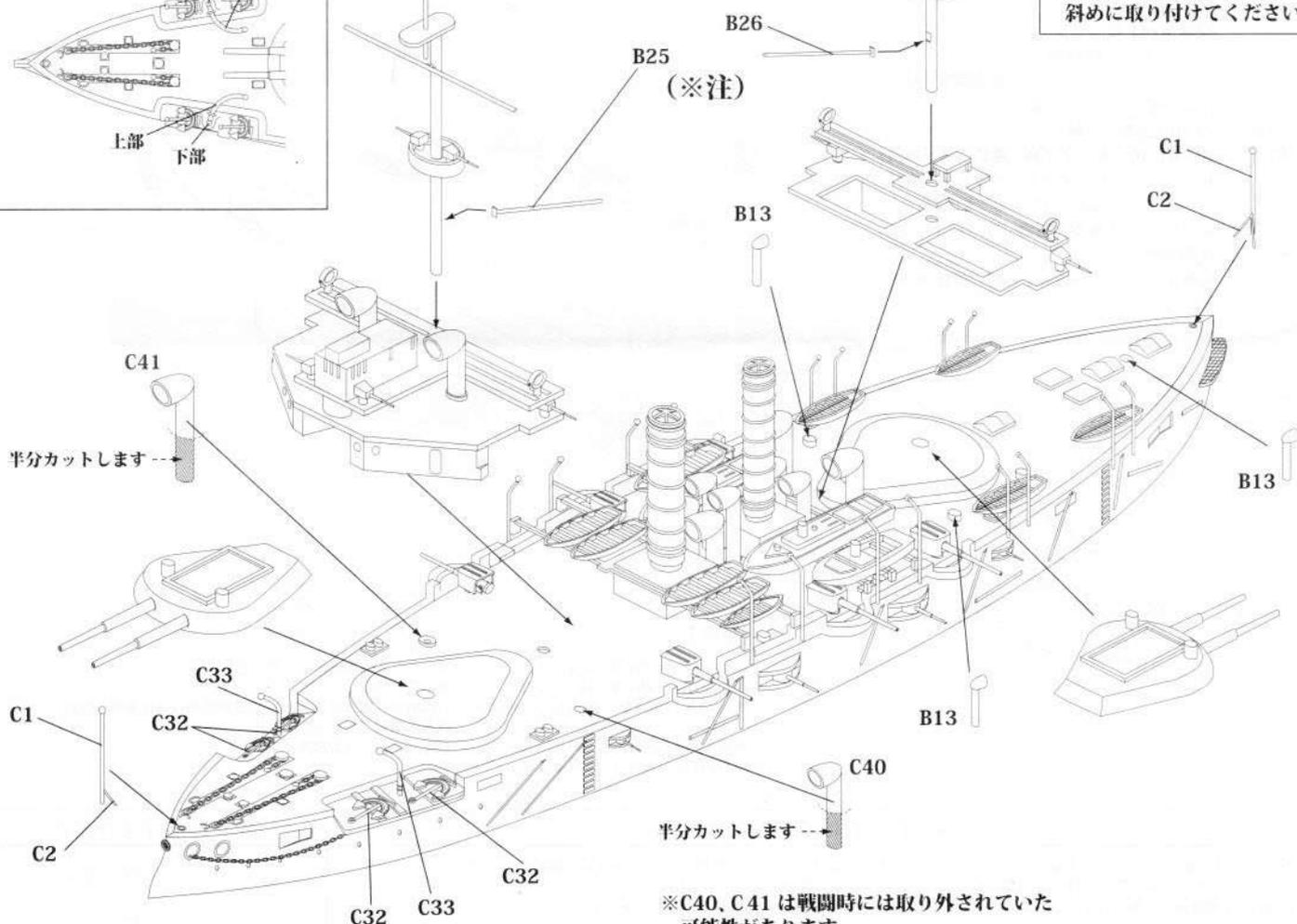
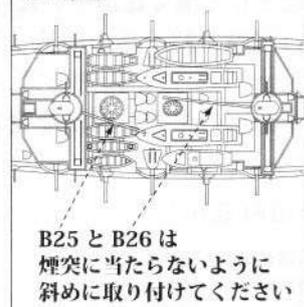
塗装 C7 (36ft 内火艇) ●船体側面・(32)軍艦色 (2) ●甲板・(44)タン ●上部建造物・(32)軍艦色 (2) ●座乗部側面・(62)つや消し白 ●座乗部底面・(43)レッドブラウン
 C5,6,10,11,12 ●船体側面・(32)軍艦色 (2) ●座乗部側面・(62)つや消し白 ●座乗部底面・(43)レッドブラウン

XIII 船体の組立 (完成)

アンカーダビット C33 は戦闘時には折り畳まれていたようです。この状態にされる方は図の要領で加工して取り付けてください



(※注)



※C40, C41 は戦闘時には取り外されていた可能性があります

日本海軍戦艦 富士

塗装図

【新造時要項】

常備排水量	12,533トン
垂線間長	114メートル
全幅	22.3メートル
航続力	10ノット/7,000哩
主機	三段膨張式三気筒レシプロ蒸気機関二基
主缶	石炭専焼缶(円缶)十基
出力/軸数	13,500馬力/二軸
主要兵装	40口径30.5センチ主砲・連装二基(四門) 40口径15.2センチ副砲・単装十基(十門) 4.7センチ単層砲二十四基(二十四門) 45センチ水上魚雷発射管一門・同水中発射管四門
装甲	舷側457ミリ/甲板63ミリ/司令塔356ミリ

【略歴】

明治27年(1894年)8月1日
ロンドン郊外のテムズ鉄工所にて起工
明治30年(1897年)10月31日
横須賀に到着
明治37年(1904年)～明治38年(1905年)
日露戦争 第一艦隊所属
旅順封鎖戦、黄海海戦(明治37年8月)、
日本海海戦(明治38年5月)
明治44年(1911年)8月28日
戦艦籍から一等海防艦へ
昭和20年(1945年)8月1日
除籍

【塗装ガイド】

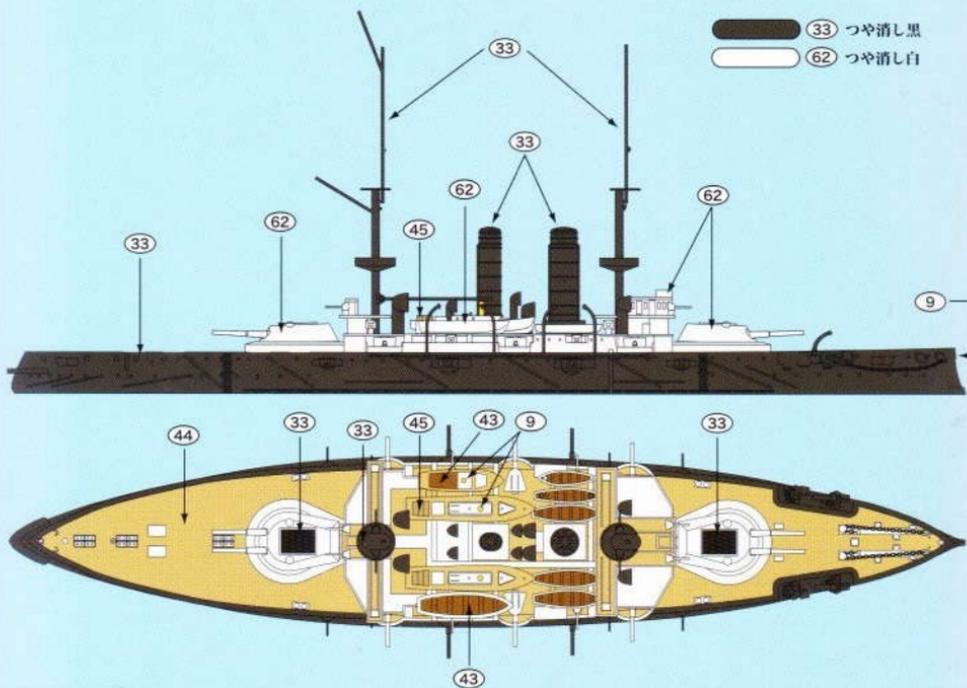
GSIクレオスのMr. カラーにて指定しています。(印刷ですので実際のカラーとは多少異なります)

1～3 共通色

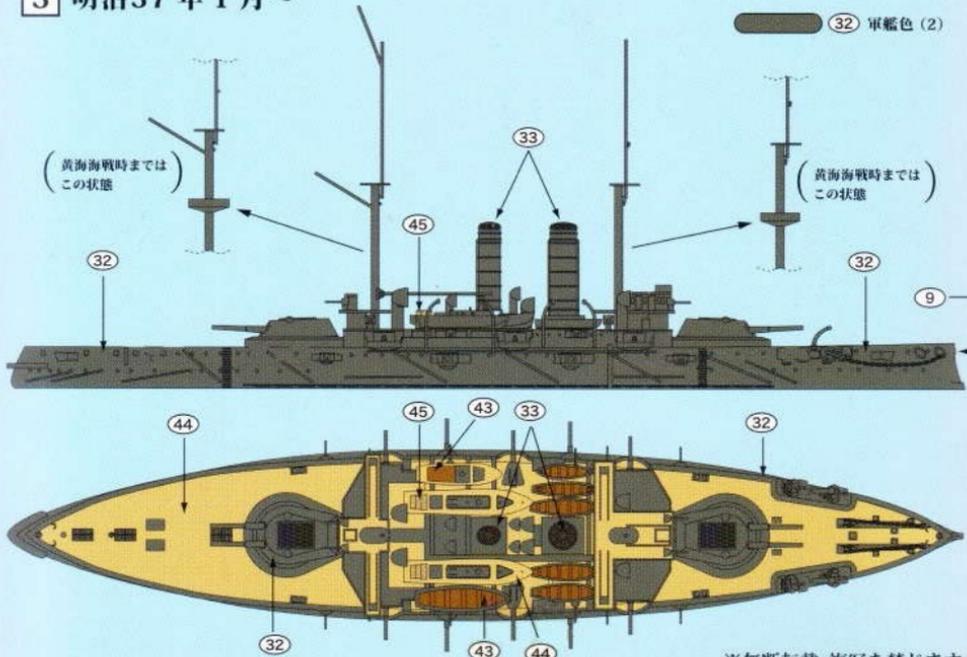
33 つや消し黒	煙突頂部、艦橋部	45 セールカラー	水雷艇キャンバス張部分
43 ウッドブラウン	ボート内部	8 銀	探照灯レンズ面
44 タン	本艦、水雷艇、内火艇甲板部	9 金	御紋章、1 2の水雷艇、 内火艇の煙突部分

1 新造時は、2の33つや消し黒の部分は、62つや消し白になります。

2 明治34年9月～明治37年1月まで



3 明治37年1月～



※無断転載 複写を禁じます。